

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：飯田 加寿子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 重症心身障害児施設で発生したチューブ類に関する事故の要因(筆頭論文)	単著	2013年3月	日本看護福祉学会誌 18(2)p121～131	重症児（者）施設1施設に焦点をあて、過去3年間で発生したチューブ類に関する事故報告書の内容を分析し、事故の要因を明らかにした。発生した事故では「経管栄養チューブ」が最も多く、発生時の状況では、活動や訓練中でも発生しており、看護職以外の職種も関わっていた。担当部分：研究計画書立案、データ収集及び統計、結果分析、考察、論文執筆。 飯田加寿子
2 (研究報告) プラダー・ウィリー症候群のある児とその家族への乳児期の看護(研究報告)	共著	2017年3月	日本遺伝看護学会誌 15(2)p57～67	プラダー・ウィリー症候群の児の乳児期に焦点を当て、母親の育児体験やその中で心の動きを明らかにし、本疾患における乳児期の看護支援について考察した。その結果、母親の思いとして12のカテゴリーが生成された。そのうち、「育児の困難さを実感」に類する内容が最も多く語られ、筋緊張低下とそれに伴う哺乳障害に対する育児の困難さが伺えた。共同研究につき本人担当部分抽出不可能：沓脱小枝子、辻野久美子、村上京子、飯田加寿子
3 (学会発表) Incidents in facilities in Japan for children with Severe Disabilities and their characteristics.	共同	2012年2月	EAFONS 15th (Singapore)	全国の重症児（者）施設を対象とし、事故の発生状況を明らかにすることを目的に調査を実施した。その結果、医療的ケアでは「投薬ミス」、生活援助では「自傷行為」が多く、要因としては、急速に医療提供が浸透していることで業務内容の変化によることが影響していた。担当部分：研究計画書立案、データ収集及び統計、考察、資料作成、発表 飯田加寿子、鈴井江三子
4 (学会発表) 病院に勤務する看護職の子ども虐待に対する認識	共同	2017年9月	第48回日本看護学会 ーヘルスプロモーションー学術集会 (山口市)	看護職の子ども虐待に対する認識を明らかにする目的で、質問紙調査を実施した。看護職は子ども虐待の早期発見の役割を担う立場にあるという認識は高く、日頃から虐待の早期発見に向けた観察や、保護者にも目を向けていた。担当部分：研究計画書立案、結果分析、考察、資料作成及び発表。 飯田加寿子、池原倫、原口由佳、沓脱小枝子、村上京子
5 (学会発表) 看護学生の子どものイメージと影響要因	共同	2017年9月	平成29年度 山口県小児保健研究会(山口大学医学部)	看護学生220名を対象に、子どもとの接触経験が子どもイメージにどのように影響するのか明らかにする目的で調査を実施した。学生は、「生き活きとした」、「愛くるしい」イメージを抱いていた。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 岡部 司、土井郁弥、沓脱小枝子、村上京子、飯田加寿子